

# 古代の群馬は栄えてた？

## ～古墳をヒントに歴史を紐解く～

前橋市立芳賀中学校 1年 大澤 蒼波

### 1 はじめに

3世紀後半から7世紀にかけての450年間、東北地方の北部から北海道と沖縄を除いた日本列島の各地で古墳が造られた。この時代を前の弥生時代、後の奈良時代と区分し古墳時代という。

古墳は全国合わせて20万基以上と推測されているが、群馬には1万2000基以上の古墳があったと推測（群馬の遺跡4古墳時代より）されている。古墳の数の多さや、前方後円墳をはじめとする大型古墳が多数あること、墳丘の周囲を取り巻く埴輪が飛び抜けて充実していること、豪華で豊富な副葬品などから、この時代の群馬が東日本屈指の有力地域であったことが分かる。つまりこの時代、群馬は栄えていたのだ！

2019年6月、大室公園で行われた「群馬古墳フェスタ2019」（写真1）に父に連れられ行ってみた。写真2は古代の衣装を着て大室古墳群を歩く私である。写真3は勾玉作り体験。写真4はここで各地の古墳ブースを巡り貰った古墳のパンフレット。身近にあるのに何も知らなかった古墳に大きな興味を持つきっかけとなった。

今回のレポートでは群馬県内の古墳と他地域の古墳を年代、形状、規模、石室の形状、副葬品など表を作って比較し、古代の群馬がどのように栄えていたか、その理由はなぜなのかを調査した。調査方法は、実際の古墳や博物館に足を運び、行けなかった古墳は古墳フェスタで貰ったパンフレットや文献を参考に調査し、また博物館の展示や文献などからこの時代の群馬県を考察してみた。



写真1 古墳フェスタ



写真2 古代衣装



写真3 手作り勾玉



写真4 古墳パンフレット

### 2 古墳時代

古墳時代とはヤマト政権の成立する3世紀後半から律令制度の始まる7世紀前半までの時代である。稲作が本格的に行われ人々が集落を造り豪族が登場、稲作をはじめとする様々な技術が朝鮮半島から入ってきた弥生時代の次の時代である。

ヤマト政権が成立した当初、吉備（岡山）や出雲（島根）には大きな勢力があり、初期ヤマト政権の勢力範囲は大和周辺に限られていたと考えられている。初期ヤマト政権はこれらの有力地域と協調体制をとり、自陣営に取り込み、共に政権運営に取り組んだと考えられている。北関東の一大勢力であった群馬の「毛野氏

時代	特徴
弥生時代	稲作の普及、集落の形成、土器の発達
古墳時代	古墳の築造、金属器の普及、階級社会の形成
奈良時代	律令制度の施行、仏教の伝来、大和政権の統一
続文時代	大和政権の衰退、地方豪族の台頭

図表1 古代略年表

（けのうじ）」もそんな豪族の一つであった。

ヤマト政権成立時の天皇は 10 代崇神（すじん）天皇とされる。そして 21 代雄略（ゆうりやく）一天皇の時代になると、吉備、北関東、九州の豪族を征して、協力体制から支配体制へと変わる。その後も各地の勢力を勢力下におき、自らの墓制である前方後円墳の築造を許した。ここから、日本各地に巨大な古墳が広まる。つまり前方後円墳がある地域はヤマト政権との強いつながりがある地域なのである。

### 3 古代の群馬「上毛野（かみつけの）」



現在の群馬県の地域のまとまり（群馬の形）の大本は律令体制の「上野国」である。このまとまりは古墳時代に形成され「上毛野」、さらにその前は「毛野（けぬ）」と呼ばれていた。弥生時代の群馬県地域では榛名山山麓、利根川とその支流をさかのぼった山間に人々は住んでいた。古墳時代に入ると、平野部へと生活の場が広がる。この事は水田を造る

図表 2 5 世紀前方後円墳分布図

技術の進歩が関係しているが、古墳を造る技術はヤマト政権から派遣された朝鮮半島の人達（渡来人）から伝えられており、同時期に進歩した水田の技術も渡来人によるものかもしれない。図表 2 は 5 世紀の前方後円墳分布図。北関東では群馬県地域に集中して多く前方後円墳が分布しているのが分かる。

## 4 各地の古墳

### 4-1 西谷墳墓群

古墳群・地域	西谷墳墓群（2 世紀後半～3 世紀）
古墳名	西谷 3 号墓
住所	島根県出雲市大津町
古墳形状	四隅突出型墳丘墓
年代	2 世紀後半～3 世紀
墳丘全長	55m
石室形状	
副葬品・埴輪等	鉄剣・ガラス勾玉・土器（吉備・北陸系含む）



写真 5 「西谷 3 号墓」

島根県出雲地方の弥生時代の墳墓。「四隅突出型墳丘墓」と言う珍しい墳墓。写真 5 は「西谷 3 号墓」。同じ種類の墳墓は吉備（岡山県）に同時代のものがある。これはヤマト政権以前にこの地域に大きな勢力があった証拠である。

私の母の実家は島根県にあり、「西谷墳墓群」近くにある「出雲大社（弥生時代後期～）島根県出雲市、「荒神（こうじん）谷遺跡（弥生時代）島根県出雲市」（写真 7）、「加茂岩倉遺跡（弥生時代）島根県雲南市」（写真 8）に何度か行った事がある。写真 6 は「出雲大社」を訪れた時の御朱印。「荒神谷遺跡」、「加茂岩倉遺跡」いずれの遺跡でも銅剣、銅鐸が地中に綺麗に人為的に埋められており、理由はわかっていないが、この時代以降のヤマト政権の成立にかかわっているのではないかと私は考える。

「古事記」（712）や「日本書紀」（720）によると「出雲大社」は、ヤマト政権に「国譲り」された際に創建され、またそれ以前にも立派な建物があったと伝えられている。このことから出雲地方には、ヤマト政権以前から大きな勢



力があり、ヤマト政権以降は積極的に古墳を造った他の地域と別の位置づけであったと考えられる。



写真6 出雲大社 御朱印  
写真7「荒神谷遺跡」  
写真8「加茂岩倉遺跡」

「加茂岩倉遺跡」(写真8)は工事現場から1カ所としては全国最多39個の銅鐸を発見。「荒神谷遺跡」(写真7)からは農道建設前の調査時、水田あぜ道から土器。周囲を発掘すると斜面から358本の銅剣が発見。「加茂岩倉遺跡」から約3kmの距離。周辺には弥生時代後期から古墳時代にかけての古墳群がある。

#### 4-2 百舌鳥,古市古墳群

古墳群・地域	百舌鳥古墳群(4世紀後半~6世紀後半)
古墳名	仁徳天皇陵古墳
住所	大阪府堺市堺区大仙町
古墳形状	前方後円墳
年代	5世紀中頃
墳丘全長	486m
石室形状	竪穴式石室
副葬品・埴輪等	金銅製の装身具・鉄製の馬具や武器



図表3 百舌鳥古墳築造当時復元図

2019年、世界遺産に登録された「百舌鳥(もず)、古市(ふるいち)古墳群」。図表3は、百舌鳥古墳築造当時復元図である。15代・応神天皇、16代・仁徳天皇の時代、4世紀後半から5世紀後半にかけて、百舌鳥エリアでは100基を超える古墳が造られた。

写真9はその中で日本最大の前方後円墳「仁徳天皇陵古墳」である。墳丘長486mで5世紀前半に造られた。くびれ部には両側に吐出した造出しがあり、三重の濠がめぐらされている。周囲には陪塚とされる古墳が10基以上もある。明治時代には石棺や甲冑が発見された。



写真9 「仁徳天皇陵古墳」

10代・崇神天皇の時代、4世紀後半から6世紀前半にかけて、古市エリアでは130基を超える様々な墳形と規模の古墳が造られた。墳丘長200mを超える巨大な前方後円墳は、7基も含まれている。

「百舌鳥・古市古墳群」は古墳時代中期、大阪湾に面した台地上に築かれた。それ以前の古墳時代前期には、これより東の奈良盆地南東部に「纏向(まきむく)古墳群(3世紀中~後半)」、「大和・柳本古墳群(3世紀中~4世紀)」が造られている。この地域がヤマト政権発祥の地であり古墳発祥の地でもある。前方後円墳もこの地域から全国に広まっていく。

4-3 埼玉古墳群

古墳群・地域	埼玉古墳群（5世紀後半～7世紀初めごろ）
古墳名	稻荷山古墳
住所	埼玉県行田市埼玉
古墳形状	前方後円墳
年代	5世紀後半
墳丘全長	120m
石室形状	横穴式石室
副葬品・埴輪等	金錯銘鉄剣・勾玉



写真10 「稲荷山古墳」

「埼玉（さきたま）古墳群」は、県名発祥の地、行田市大字埼玉にあり、5世紀後半から7世紀はじめごろまでに9基の大型古墳が造られた。写真10はその中の「稲荷山古墳」である。

写真11は1986年にここから発掘された「金錯銘（きんさくめい）鉄剣」である。辛亥（しんがい）の年（471）、この古墳の主にワカタケル大王（21代・雄略天皇・吉備、北関東、九州を征した人）より代々親衛隊長として仕えてきた功績により、この剣が下賜（かし・・・天皇から記念品などをもらう事）されたと書かれている。熊本県の「江田船山古墳」からもワカタケル大王と刻まれた鉄剣が発見されており、5世紀ヤマト政権の力が埼玉から九州に及んでいたことが分かる。

この時代、文字の伝達に紙が使われておらず、木簡などが使われていたが、木なので現在に至るまでに失われてしまい、当時の記録は文字で直接読み知ることはほとんどできない。この時代を知るには後の「日本書紀」「古事記」に頼るしかない。よって、数少ない貴重な資料がこの鉄剣である。「2古墳時代」で述べた雄略天皇時代のヤマト政権の動きもこの鉄剣から証明されている。



写真11 金錯銘鉄剣

5 上毛野（群馬）の古墳

5-1 広瀬古墳群

古墳群・地域	広瀬古墳群（4世紀～6世紀）	
古墳名	前橋天神山古墳	前橋八幡山古墳
住所	群馬県前橋市広瀬町	群馬県前橋市朝倉町
古墳形状	前方後円墳	前方後方墳
年代	4世紀前半～中頃	4世紀中頃
墳丘全長	129m	130m
石室形状	粘土槨	{推定} 竪穴式石室
副葬品・埴輪等	銅鏡・武器、坪型土器	未発掘

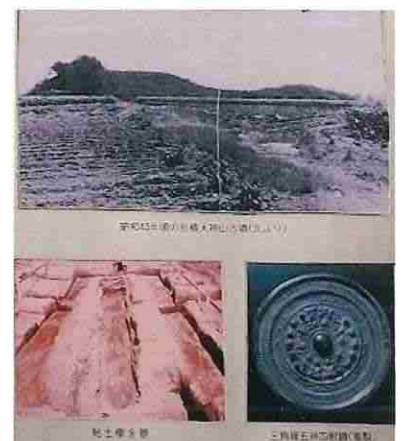


写真12 「前橋天神山古墳」  
案内看板





写真 13 「前橋天神山古墳」

前橋の広瀬川右岸沿いには、5kmにわたって大小約150基の古墳が分布。他に、「天川二子山古墳」などがある。写真13は県内最古の前方後円墳、「前橋天神山古墳」。東日本で最も早く造られた古墳の1つ。現在は住宅地の整備により、後円部のみが四角い丘として残されている。写真12は古墳のわきにあった案内看板。上段は元の姿の写真、下左は粘土槨、下右は粘土槨から発見された三角縁神獣鏡。ここからは銅の矢じり、鉄剣、斧、ノミなどが出土。粘土槨とは、遺体を収めた木の棺を粘土で覆ったもの。初期の古墳でみられる。埴輪は無いが、坪型の土器が後円部頂を巡るように置かれていた。



写真 14 「前橋八幡山古墳」

「前橋天神山古墳」の北西近くには写真14・15の「前橋八幡山古墳」がある。「広瀬古墳群」内唯一の前方後方墳。主体部は未発掘だが、初期の古墳で多く見られる竪穴式石室と推定されている。現在は公園として整備されている。共に墳丘長130mほどの大型古墳であり、豊富な副葬品からヤマト政権との密接なかかわりのもと、前橋台地東半を統合した社会が出現したことを意味する。



写真 15 「前橋八幡山古墳」

## 5-2 太田天神山古墳

古墳群・地域	
古墳名	太田天神山古墳
住所	群馬県太田市内ヶ島町
古墳形状	前方後円墳
年代	5世紀前半～中頃
墳丘全長	210m
石室形状	{推定} 竪穴式古墳
副葬品・埴輪等	円筒埴輪・水鳥形埴輪



写真 16 「太田天神山古墳」と「女体山古墳」

写真16は5世紀中頃に造られた太田天神山古墳と女体山古墳である。天神山古墳は3段築成の墳丘で、長さは210mと東日本最大の前方後円墳である。北西と西に倍塚とされる小円墳を持ち、2重の周堀を含めた長さは364mである。主体部はすでに盗掘を受けており、くびれ部にある神社の脇に長持型石棺の一部(写真17)が露出している。



古墳の規模や石棺、立地などからヤマト政権と強いつながりを持って毛野を統括した人物のものだと考えられる。



写真 17 長持型石棺の一部

2016年に訪れた際、雨が降った後ではないのに古墳に通じる道がぬかるんでいた。この場所が自然の湿地帯である事がわかった。この時代、水田を造って水を貯めるには灌漑（かんがい）技術が未成熟で自然の湿地を利用したり、水田の区画を小さくして水を貯めていた（かみつけの里博物館展示より）。他に訪れた古墳の周囲にも必ず水田があった。古墳時代の群馬には水田に適した土地が豊富で、加えて山も近く狩猟にも適していた。それにより大きな勢力が生まれたと私は考えた。

### 5-3 保土田古墳群

古墳群・地域	保土田古墳群（5世紀後半～6世紀前半）		
古墳名	二子山古墳	八幡塚古墳	薬師塚古墳
住所	群馬県高崎市保土田町		
古墳形状	前方後円墳	前方後円墳	前方後円墳
年代	5世紀前半	5世紀後半	6世紀前半
墳丘全長	108m	102m	105m
石室形状	舟形石棺	舟形石棺	舟形石棺
副葬品・埴輪等	須恵器・土師器	鵜形埴輪・	鏡・装身具・馬具



写真 18 人物・動物埴輪

群馬県では5世紀後半になると、それまで前方後円墳が造られなかった地域にもその分布が拡大。榛名山東南麓に位置する「保土田古墳群」もその一つで、30年から50年の間に100m規模の3基の前方後円墳が相次いで造られている。

また、古墳群の南東からは昭和56年、上越新幹線の建設に伴う発掘調査で「三ツ寺」遺跡が発見された。



写真 19 「二子山古墳」



写真 20 舟形石棺

古墳群の中で最初に造られたのが写真19の「二子山古墳」である。この古墳群で最初の5世紀前半に造られた。墳丘長108m、内堀と外堀を巡らせており、外堀まで含めた全長は213mあり、内堀の中には円形の中島（祭祀場）が4つ存在している。墳丘の頂上に設けられた埋葬施設

は大型の舟形石棺（写真20）であるが、現在は元の場所に埋め戻されている。この古墳からは大量の埴輪片が発掘され、数千本の円筒埴輪が墳丘や内堤、外堤に並べられていたと推定されている。内堤の北側には人物、家、器材、動物の埴輪が並んでいたようだ。



写真 21 「八幡山古墳」



写真 22 整備前「八幡山古墳」

「八幡塚古墳」（写真21）はこの古墳群で2番目である5世紀後半に造られた。墳丘長96m内堀と外堀、外周溝が巡り墓域の長さは190mに及ぶ。内堀の中には中島が4つ存在

している。この古墳にもたくさんの埴輪が並べられていた。円筒埴輪は何重にもなっていて6000本と推定されている。内堤上の2か所には人物、動物埴輪（写真18）があり、それぞれ50体以上が並んでいたようだ。一つの古墳では、最多級の量



写真 23 舟形石棺



で、配置状態もわかる重要な資料である。後円頂部には埋葬施設（写真 23）があり舟形石棺が収められていた。その脇には竪穴式石槨（せっかく・・・木棺を石で囲んだもの）が発見され豪族の近親者の棺であると思われる。現在は実際の古墳内部で埋葬設備が見学できるように整備されている。

初期の古墳である「前橋天神山古墳」の粘土槨と比較し、大きな石を加工して造られた舟形石棺からは、技術の進歩を感じさせられる。

かつて、この古墳は大きく削られていた（写真 22）。現在は史跡公園としてよく整備されており私が訪れた時にかみつけの里博物館と共にたくさんの見学者がいた。



写真 24 「薬師塚古墳」

写真 24 はこの古墳群で最後に造られた「薬師塚古墳」である。現在はかなり変形を受けているが墳丘長 105m で後円部頂上には出土した舟形石棺（写真 25）が保管されている。

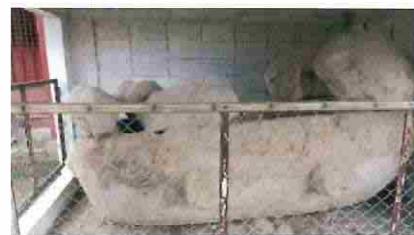


写真 25 舟形石棺



写真 26 「三ツ寺 I 遺跡」

写真 26 は 1981 年に発見された「三ツ寺 I 遺跡」である。発掘当時、巨大古墳を中心とした古墳時代の様子が解明されつつあったが、その社会を治めた王の居館の実像は不明であった。日本で初めて発見されたこの豪族居館は当時の想像とかけ離れた規模と構造であった。居館の周囲は堀で囲われ、その外側には堀が見える。外敵からの襲撃に備えた作りである。また、周囲からは水田の遺跡、農機具と思われる木片などの出土。写真 27 は現在の「三ツ寺 I 遺跡」。



写真 27 現在の「三ツ寺 I 遺跡」

また、この地域からは朝鮮半島から渡ってきた人達「渡来人」の古墳や遺物が出土している。朝鮮の人々はヤマト政権から派遣され農業、建築、古墳造成、軍事など様々な技術をこの地域にもたらしたと考えられる。

8 世紀に書かれた「日本書紀」には群馬県地域出身の「上毛野（かみつけの）氏」が、朝鮮半島に将軍として渡ったり、知識人を朝鮮半島から呼び寄せたとの記述があり、この渡来系遺跡が「日本書紀」の記述を裏付ける。

この地域における王であった豪族がヤマト政権と強い結びつきを持ち、大きな力を持っていた事がわかる。

5 世紀末と 6 世紀前半の 2 回に渡って榛名山が噴火。榛名山東南麓にあった一帯は火山灰に埋もれ以降使われなくなった。その火山灰により多くの遺跡が保存され、現在の私達が当時の暮らしを知る大きな手掛かりとなっている。

#### 5-4 大室古墳群

古墳群・地域	大室古墳群（6 世紀）		
古墳名	前二子古墳	中二子古墳	後二子古墳
住所	群馬県前橋市西大室町		
古墳形状	前方後円墳	前方後円墳	前方後円墳
年代	6 世紀初頭	6 世紀前半	6 世紀後半
墳丘全長	94m	111m	85m
石室形状	両袖形横穴式石室	横穴式石室（推定）	両袖形横穴式石室
副葬品・埴輪等	円筒、杖形	人面円筒、円筒、盾持人	犬像付き円筒、馬型

「大室古墳群」は前橋市東部、赤城山南麓に位置し、現在大室公園として整備されている。6 世紀に造られた墳丘長 100m 前後の 3 基と 35m 前後の前方後円墳 2 基、20m の円墳 1 基がある。この地域には中小の古墳が多数分布するが、大型古墳は無く、この地域を支配する強い勢力がここにあったことが分かる。





写真 28 「前二子山古墳」

「前二子山古墳」(写真 28)は6世紀初め「大室古墳群」の中で最初に造られた古墳で、墳丘長 94m。周堀、外堤、外周溝が巡る。

埋葬施設は県内最古の両袖形横穴式石室で、前述の「保土田古墳群」の舟形石棺から更に大掛かりな造りへと進化しているのが分かる。古墳群の全てで同じタイプの石室が造られており、時代ごとに石室の造りが変化、固定されているのが分かる。円筒埴輪は古墳群の中で一番大きく、杖形埴輪は遠く奈良県の物と似ている。



写真 29 「中二子山古墳」

「中二子山古墳」(写真 29)はこの古墳群最大規模で、墳丘長 111m、二重の堀が巡る。6世紀前半にこの古墳群では2番目に造られた。南側の中堤に盾持ち人の埴輪が並ぶ。埴輪の一部に海由来の砂粒があることから、藤岡市周辺で作成された埴輪が運び込まれたと考えられる。



写真 30 「後二子山古墳」

「後二子古墳」(写真 30)は「小二子古墳」(墳丘長 38m前方後円墳)と接しており朋に6世紀中ごろから後半に造られた。石室構造は横穴式であるが、石室の下を掘り上げてあり、墳丘の土が節約されている。写真の石室入り口左には、儀式の跡や土器がまとまって出土した様子が再現されている。円筒埴輪に「親子猿」や「犬」の小像。馬型埴輪は大阪の「人が乗る馬型埴輪」と同じ製作者の埴輪。

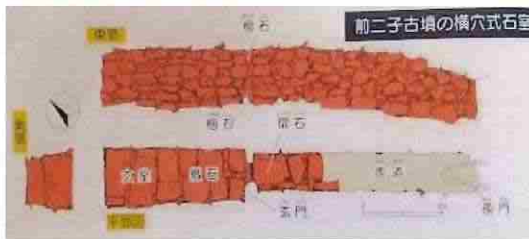


写真 31 「前二子山古墳」石室 図表 4 「前二子山古墳」石室

写真 31・図表 4 は「前二子古墳」の石室。写真 32・図表 5 は「後二子古墳」の石室。共に「保土田古墳群」における石棺の様子と大きく異なる。特に使用している石の大きさが大きくなって複雑な形の石室が造られるようになった事が分かる。「前二子古墳」と「後二子古墳」を比べても、壁に使われている石が大きくなっている。当時、人力で積み上げたと考えると、同じ古墳群の同じタイプの石室でも短い期間に技術が進歩していると感じた。

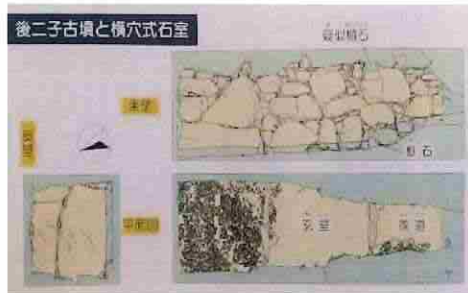
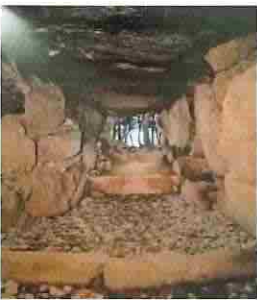


写真 32 「後二子山古墳」石室 図表 5 「後二子山古墳」石室

「大室古墳群」東には7世紀に造られた9基の円墳が発見された。この中の「多田山 12 墳」(墳丘長 34m円墳)の前庭から「唐三彩」(唐の高級陶器)の破片が出土。(写真 33 復元品)

「唐三彩」は8世紀に「唐」から持ち込まれ、寺院(古墳時代には無い)や、役所跡で見つかっており、また当時とても貴重なものとされ日本でも限られた人しか持ちえないとされていた。調査により、これは660年から750年の間に「唐」で造られた物と分かる。日本では645年に「大化の改新」があり、663年に「遣唐使」が始まりその「遣唐使」によって持ち込まれた「唐三彩」が8世紀頃にこの場所に儀式の為に置かれたと考えられている(群馬の遺跡4 古墳時代より)。つまり、古墳時代以降もこの古墳の一族は勢力を持っていた証拠である。



写真 33 唐三彩 (復元品)



### 5-5 南下古墳群

古墳群・地域	南下古墳群（6世紀後半～7世紀後半）
古墳名	南下E号古墳
住所	群馬県群馬郡吉岡町大字大林
古墳形状	円墳
年代	7世紀末
墳丘全長	径約21m
石室形状	両袖形横穴式石室
副葬品・埴輪等	埴輪の欠片さえ見つからなかった



写真34 「南下E号古墳」

「南下（みなみしも）古墳群」は吉岡町の南下から大久保の溝祭り地区に分布し、100基以上の古墳があった。6世紀後半から7世紀末の約100年間に造られた。現在6基の円墳のうち5基の石室が開口し、自然石や切り石で造られている。古墳時代末期の石室規模や構築技術の移り変わりが観察できる極めて珍しく貴重な古墳群。

この時代は前方後円墳などの大型の古墳は造られなくなるが、石室の造りがそれ以前の古墳と比べ大きな石をきれいに加工し整然と積み上げており、明らかに進歩している。当時は全て人力であり、大きな石を遠くから運搬するのも、加工、積み上げるのも高い技術と多くの人員を必要とした。以前の古墳と比べ、一見古墳が小さくなっているのが勢力が弱まったのかのように見えるが、石室を比べると当時の豪族の勢力が以前の豪族と同じように大きかったこと想像できる。



写真35 玄室奥壁



写真36 赤色作業線

写真34は「南下E号古墳」。古墳群内で最後に造られた。墳丘長21mの円墳で石室は写真35のように精巧な切石組積となっており、同じ古墳群の初期の造りと比べても進歩が見られる。写真36は作業に使われた赤色の線。埴輪は見つからず、この時代には埴輪が造られなくなった事が分かる。

### 5-6 三津屋古墳

古墳群・地域	
古墳名	三津屋古墳
住所	群馬県北群馬郡吉岡町
古墳形状	正八角形墳
年代	7世紀後半
墳丘全長	23.8m
石室形状	横穴式石室
副葬品・埴輪等	盗掘されたため不明



写真37 「三津屋古墳」





写真 38 整備前の「三津屋古墳」

「三津屋古墳」は全国でも極めて珍しい正八角形墳である。墳丘は2段で周堀を持ち、石室は破壊されていたが、奥壁石や側壁根石の抜き取り跡から一部切石を用いた自然石乱石積の横穴式石室であったと思われる。副葬品は盗難をうけたため残っていなかった。古墳の年代は墳丘構造や石室の様子から7世紀後半と考えられる。八角形墳は7世紀中頃から8世紀初頭にかけての畿内地方の天皇陵古墳などに代表されるが発掘調査で本来の姿が確認されていない。そうした意味でも全貌のわかった「三津屋古墳」の価値は非常に高い。

## 6 おわりに

今回のレポートでは古代の群馬は栄えていたということを群馬県内と他地域の古墳を比べ、なぜ、どのように栄えていたのかという観点から明らかにすることができた。そして全国的にも珍しい古墳や古代の人々の暮らしが分かる遺跡が群馬にあり、他県にも誇れるほどの質や規模、量のある古墳が数多く存在していることと古墳も技術的な進歩を遂げていたということが分かった。古代の群馬に古墳が多数あり栄えていたのだから、現在の群馬も古墳によって観光客が増え栄えれば良いと思うばかりである。

## 7 写真・図表・参考文献等紹介

### 写真・図表紹介

- 写真1 群馬古墳フェスタ 2019 パンフレット・写真2 古代衣装の私・写真3 私の作った勾玉・写真4 古墳パンフレット  
 写真5 西谷3号墳「出雲の古墳アドベンチャー」より・写真6 出雲大社御朱印・写真7 荒神谷遺跡「荒神谷遺跡」ホームページより  
 写真8 加茂岩倉遺跡「加茂岩倉遺跡がダンス」ホームページより・写真9 仁徳天皇陵古墳「百舌鳥・古市古墳群」パンフレットより  
 写真10 稲荷山古墳「さきたま史跡の博物館」パンフレットより・写真11 金錯銘鉄剣「さきたま史跡の博物館」パンフレットより  
 写真12 「前橋天神山古墳」案内掲示板より・写真13 前橋天神山古墳・写真14・15 前橋八幡山古墳・  
 写真16 太田天神山古墳と女体山古墳「群馬の遺跡4古墳時代」より・写真17 太田天神山古墳 長持ち型石棺  
 写真18 八幡塚古墳 埴輪・写真19 二子山古墳・写真20 二子山古墳案内看板より・写真21 八幡山古墳  
 写真22 八幡山古墳案内掲示板より 写真23 八幡山古墳 舟形石棺・写真24 薬師塚古墳・写真25 薬師塚古墳 舟形石棺  
 写真26 三ツ寺遺跡「かみつけの里博物館」展示より・写真27 三ツ寺遺跡案内掲示板より・写真28 前二子山古墳  
 写真29 中二子山古墳「大室古墳群」パンフレットより・写真30 後二子山古墳「大室古墳群」パンフレットより  
 写真31 前二子山古墳石室「大室古墳群」パンフレットより 写真32 後二子山古墳石室「大室古墳群」パンフレットより  
 写真33 唐三彩「群馬の遺跡4古墳時代」より 写真34 南下E号古墳「南下古墳群」パンフレットより  
 写真35・36 南下E号古墳石室「南下古墳群」パンフレットより・写真37・38 三津屋古墳「三津屋古墳」パンフレットより  
 図表1 古代略年表「地形と地理で読み解く古代史」より・図表2 前方後円墳分布図「かみつけの里博物館」展示より  
 図表3 百舌鳥古墳復元図「百舌鳥古市古墳群」パンフレットより・図表4・5 前二子・後二子古墳石室「大室古墳群」パンフレットより

### 参考文献

群馬の遺跡4古墳時代(群馬県埋蔵文化調査事業団編) 出雲の古墳アドベンチャー(まりこふん著)

地形と地図で読み解く古代史(洋泉社)

### 参考文献(パンフレット)

百舌鳥・古市古墳群 さきたま史跡の博物館 かみつけの里博物館 大室古墳群 南下古墳群 三津屋古墳

### 参考ホームページ

荒神谷遺跡 加茂岩倉遺跡がダンス 出雲大社